

健康で長生きの まちづくり

6月、9月議会での
一般質問から



小金井で元気に！小金井を元気に！

五十嵐京子

通信
第40号

2015年10月発行 五十嵐京子を支援する会・小金井市本町3-8-9 312 電話042-384-9920

6月議会

「もっと野菜を食べよう」とか「野菜を3倍食べよう」という呼びかけを、街ぐらゐで展開し、健康づくりをしている自治体が増えています。背景には長寿といつても健康でなければ豊かな人生とは言えないという考えの広がり、そして医療費の増大もあります。同時に子供たちの食も大事です。



大学との連携を進めよう

埼玉県坂戸市では、地域の大学との連携により葉酸プロジェクトを発足、ビタミンである葉酸を積極的に摂取できるよう商品開発し取り組んだ結果、医療費の削減につながったという実績を作りました。小金井市



でも農工大学のような地域にある大学と連携を進め、市民の健康づくりを進めるよう提案しました。実際、農工大学には骨粗鬆症や歯周病の研究に取り組んでいる研究室もあります。

9月議会

地域的知的資源を活用し連携を進め、「みんなで取り組む」ことがこうした運動を成功に導く一つのポイントであると先進例では示しています。

糖尿病の重症化を防ぐために

全国的に増えている糖尿病。自覚症状が乏しく、治療をしている人も少ないのが特徴ですが、重症化すると人工透析になることもあります。人工透析は本人の肉体的・時間的負担が大きければかりでなく、医療費が一人年間500万円以上と高額になり、医療費全体には大きな課題になっています。

データに基づいた対策を

荒川区や足立区では重症化予防のために健診データなどを活用して、医師と連携し保健指導を実施、効果をあげています。小金井市でも積極的なデータ活用で重症化予防の取り組みをするよう要望しました。厚生労働省が国民健康保険の保険者にもデータヘルス計画の策定を求め、データに基づいた事業の実施を求めているということで、小金井市でも今年度データヘルス計画の策定に着手しているとの答弁がありました。その計画の活用で重症化予防に取り組むよう要望しました。

健康で長生きが全ての人の望み。全国で100歳を超える人が6万人以上、小金井市内でも約60人という超高齢社会です。健康への取り組みを一層進めていく必要があります。

稲葉孝彦市長、10月5日の本会議で、12月の市長選に不出馬を表明。

平成11年に市長に就任して以来、市職員の人件費比率の是正、駅周辺の街づくりの推進、ごみ焼却場問題の解決、と大きな事業を果たし、市政運営の土台を固めました。稲葉市長の功績は高い評価に値します。